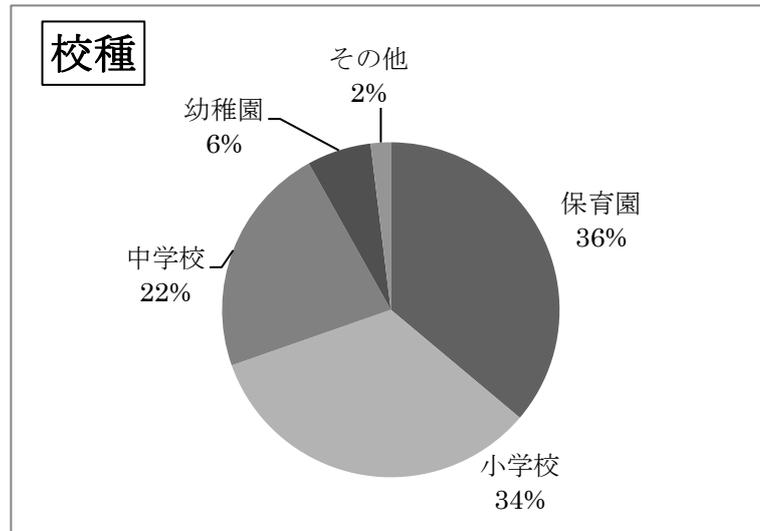


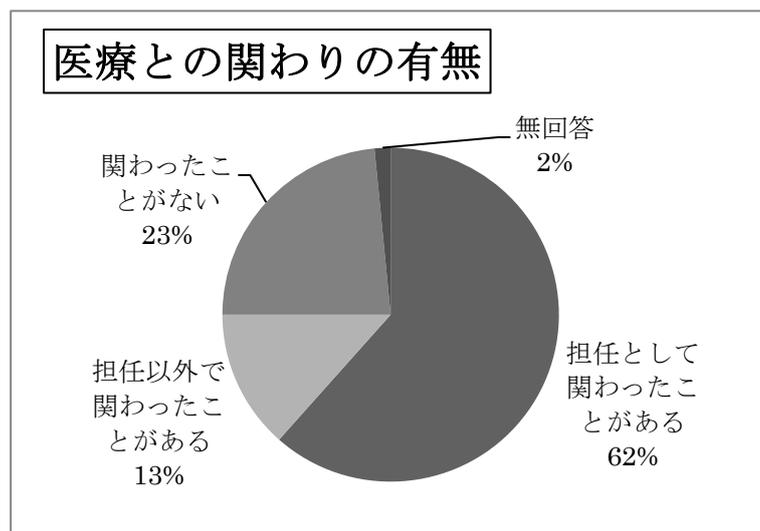
## 補足資料

### A町における医療との連携に関する実態調査の結果について

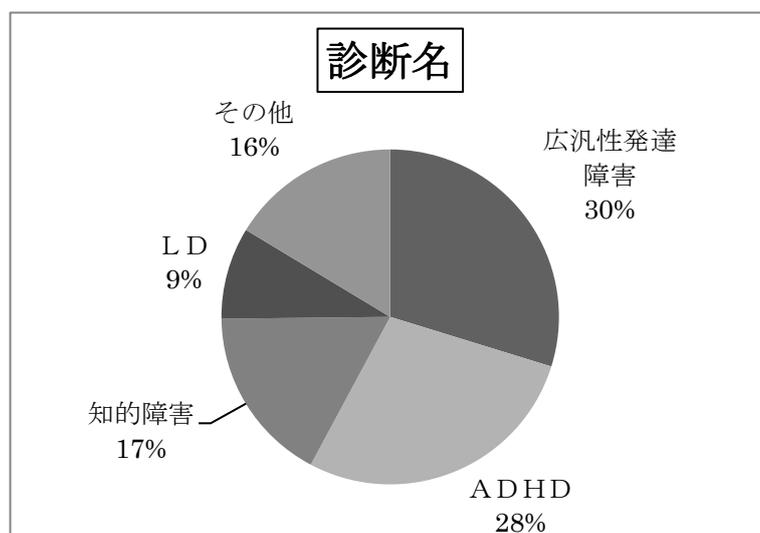
#### 基本情報



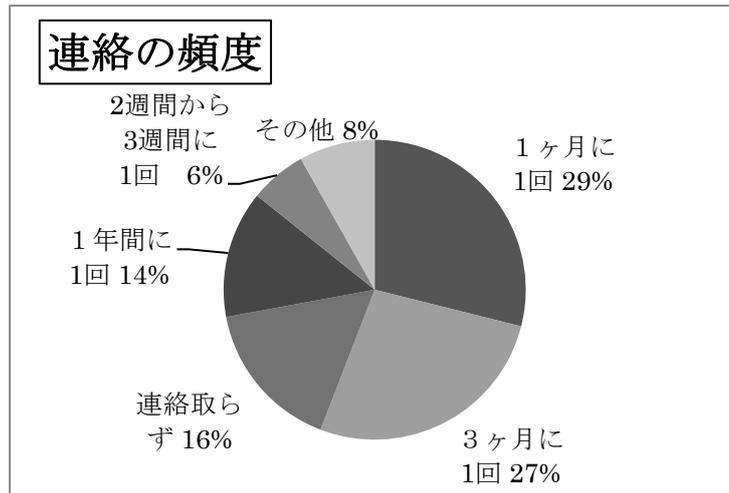
#### 〈設問①②より〉



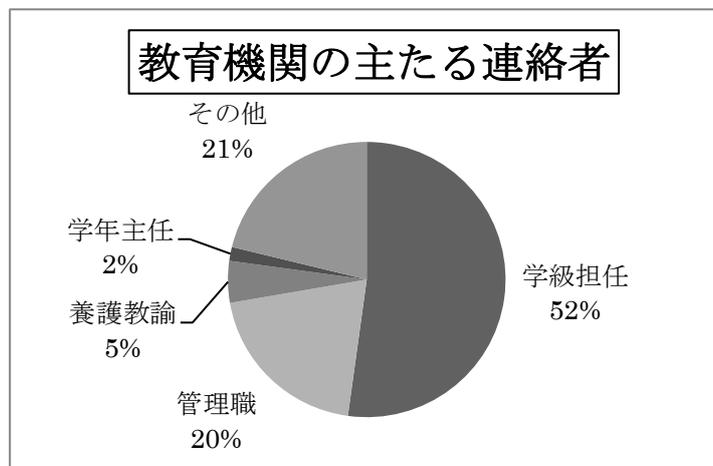
#### 〈設問③より〉



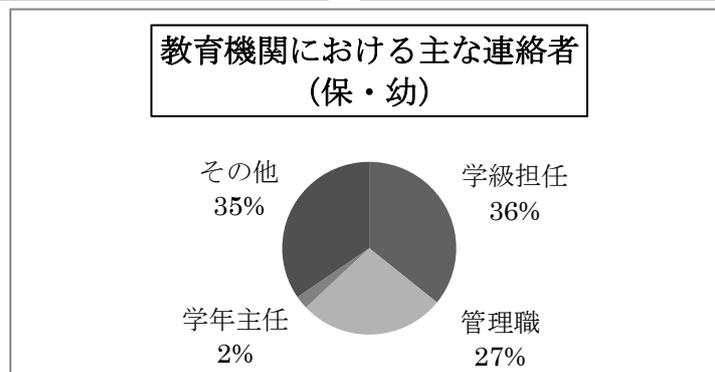
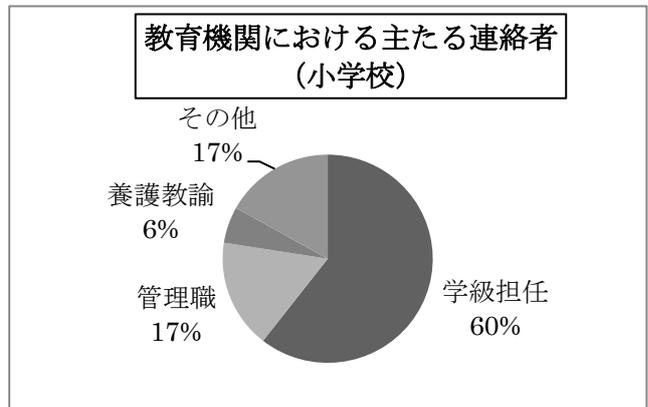
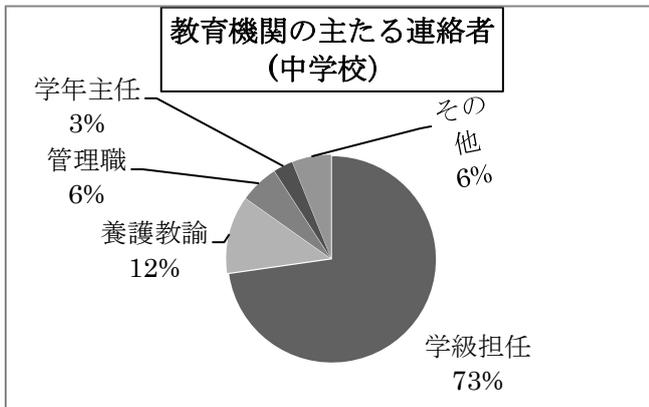
〈設問④より〉



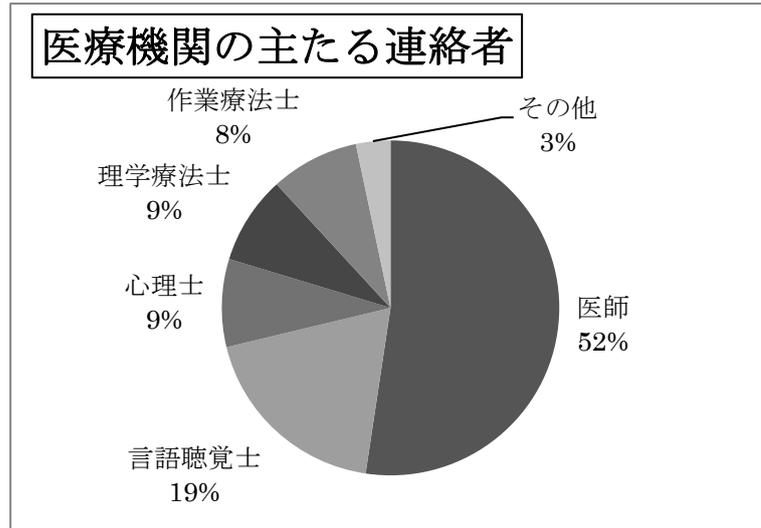
〈設問⑥より〉



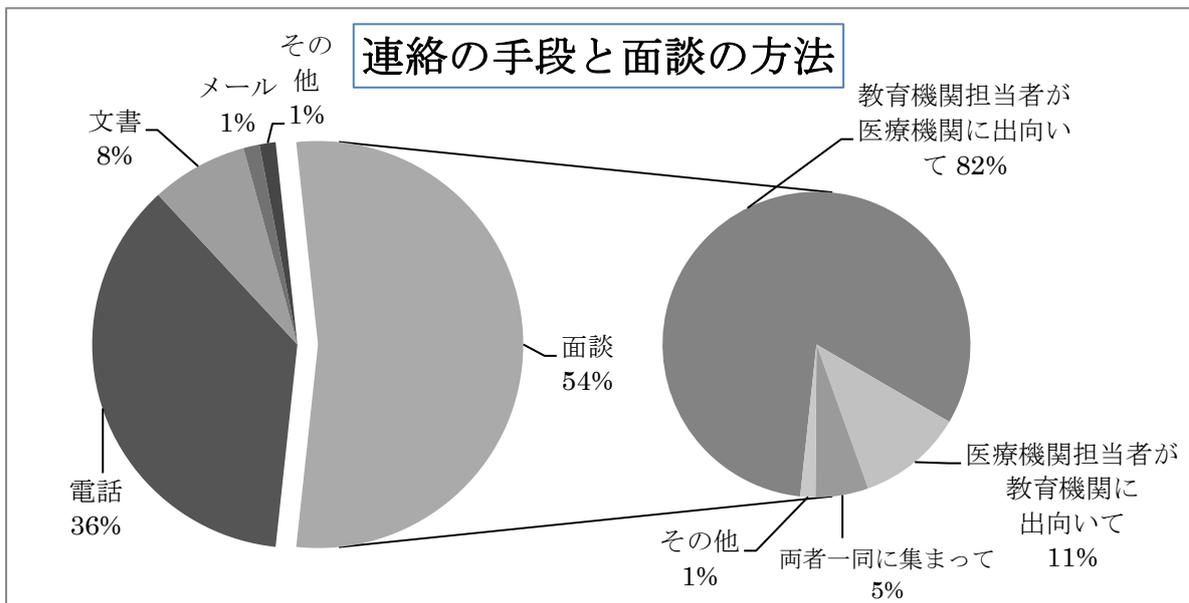
〈設問⑥〉校種別による結果



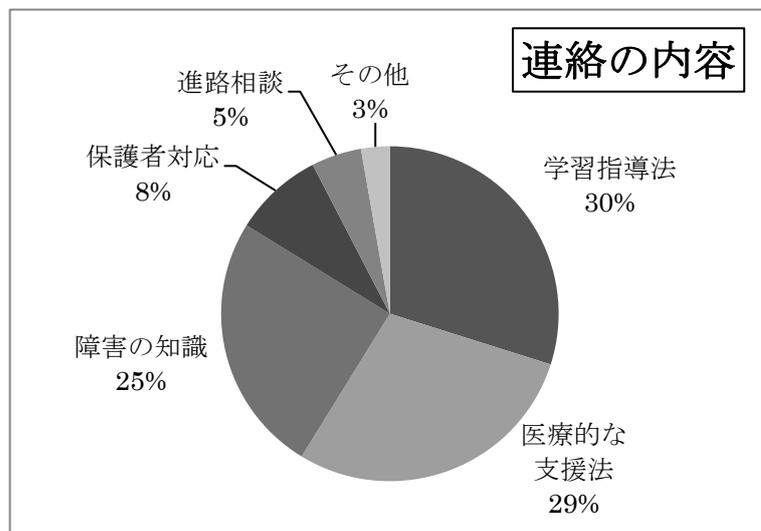
〈設問⑦より〉



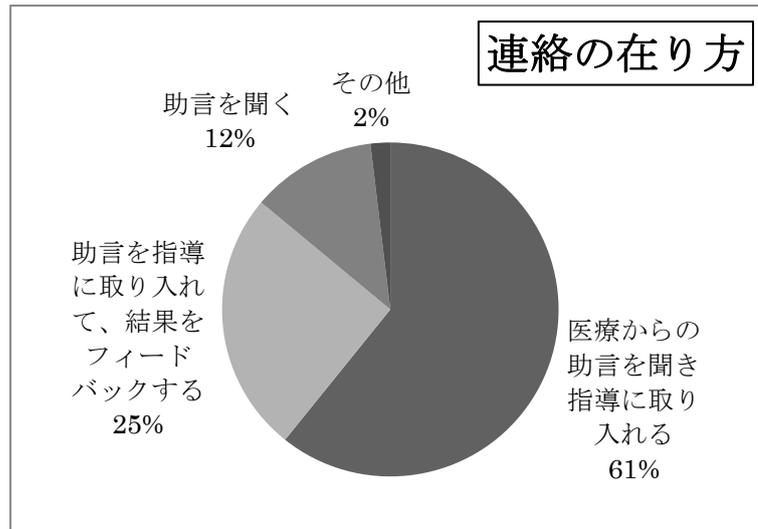
〈設問⑧⑨より〉



〈設問⑩より〉



〈設問⑩より〉



〈設問⑫自由記述欄より〉

**(時間設定等について)**

- ・ 相談の時間をとるのが大変。
- ・ 予約がいっぱいで面談の機会があまり設定できないこと、時間も限られていて学校での実態や対応の仕方を詳しく相談できないこと。
- ・ 時間が限定されており、もっと多くの時間話し合うことが大切。
- ・ 非常に短時間なのでもっと時間がほしかった。
- ・ 連絡を取り合う時間の確保。(医師が忙しすぎる)
- ・ 医師が多忙すぎて面談の時間をとることができにくい。また医師と児童や保護者との面談も予約が多いために数ヶ月待ちで時間 15 分という実情があるため、医師と話しても十分に聞いてもらえない。また十分な助言をもらっているという気持ちにならないことも少なくない。とにかく専門の医師の不足を強く感じる。
- ・ 日程調整。
- ・ 時間の確保。
- ・ 専門医が少なく予約待ちで日数がかかる。
- ・ 多忙な医師との連絡がとりづらい。連携のとり方がわからなかった。
- ・ 医師、教員共に多忙で連絡が取れにくい。
- ・ 時間にゆとりが無く、日々気にしているが十分な対応ができていない。
- ・ 時間、相談や診察と公務のすりあわせが難しかった。
- ・ 診断できる医師が少ない。
- ・ 医療機関の診断後のフォローや時期。(見てもらいたくても時間がかかる)
- ・ 十分な時間をとっていただくことが難しかった。
- ・ 聞く時間が限られている。
- ・ 特別な支援が必要ではないかと思われる子どもがいるが、予約が何ヶ月もとれない。
- ・ なかなか時間の予約が取れず先延ばしになってしまう子どもがいる。保護者が今相談したい、受診してみたいと思っているタイミングがずれてしまうので少し不安に思う。
- ・ 支援が必要と感じてもすぐに受診ができず、とても時間がかかる。

- ・ 医療機関が混雑しており、希望するときに診断助言が受けられない。
- ・ なかなか予約がとれない。
- ・ 受診が3～4ヶ月待ちなのでもう少し短くはないか。
- ・ 予約を取って医療機関の都合のよい日に行くので、相談したいときとタイミングが合わない場合がある。
- ・ 予約待ちが3ヶ月以上の現状。入園後に気づいた園児の行動面や気になる事について、これでは特別支援保育士の配置までに問題がある。保健師、園、関係機関の連携がスムーズにできるまでには問題点が多い。
- ・ 医師の説明が分からないときがある。多忙とおもわれるため説明の時間が十分とれない。
- ・ 医師と直接連絡をとることが難しく、看護師や事務員からの伝言となることがある。
- ・ 医療と教育の接点の機会が持てていない。

### (連携等の内容について)

- ・ 学校現場のことを理解して支援の仕方などにアドバイスをいただいたりする医師にはあまりであったことが無い。間に心理士をはさみ、歩み寄りの中で連携が取れると保護者も安心するのではないかと思うが、どうしても医師が上の立場に立って話をされるように思う。
- ・ 保護者の方は定期的に児童のことについて医師に相談されているが、相談に対し「〇〇したほうがよい、して下さい」ということを担任と全く相談無いままに言われるため、保護者が誤解を持ったり、担任・保護者間で事実やそれに対する指導法の認識にずれが生じたりすることがある。
- ・ 学校現場の実情にそぐわない学習支援を学校にしてもらうように保護者にアドバイスされても困ることがある。
- ・ 医療と学校現場が違う方向に支援することの無いようにしなくてはならない。
- ・ 教育的立場と医療の立場ではどうしても指導法等考え方にずれが生じることがあり、その折り合いをつけていくことが課題。
- ・ 学校側は学校での様子から医療側は医療の立場から、つまり互いが異なる視点から見つめ対策を各々考えるのでうまくかみ合わないものを感じる。可能であれば、会って互いの見解をすり合わせ共通理解を図った上で対応を考えていきたい。
- ・ 医師は個の生徒の対応はアドバイスしていただけるが、全体の指導については厳しさがある。個別対応を積極的にとご指導いただいたが教育のプロと医療のプロのせめぎあいうまく機能しないときがある。
- ・ 医師や言語療法士は具体的な支援方法を教えてくださいるので、効果がある。
- ・ 医療機関との面談・受診のとき、子どもの姿と普段の園生活での子どもの姿が異なる場合など、保護者や医療機関との連携が取りにくくなったり、その場で断ち切られたりする場合がある。
- ・ 病院での児童生徒と普段の児童生徒の姿が違うため、園での生活を伝えても伝わりにくい。
- ・ 保護者とその子どもと一緒にいたため、担任が子どもの姿で気になっている面を詳しくは伝えきれなかった。個別に質問をし、保育に生かせる意見を聞く時間があれば良かった。
- ・ 児童も一緒に見てほしいが親が障害を認めず教員のための相談で実態把握がしてもらいにくか

った。

- ・ 医師によって診断が異なる。
- ・ 個人情報の扱い。
- ・ 守秘義務に関して。(医療機関との信頼関係)
- ・ 個人情報となるので保護者の話を聞く状態にある。
- ・ 個人情報の共有と守秘義務の兼ね合い。
- ・ 学校に定期的に医師に来てもらいクラスの様子を見てもらえたら気になる子へのよりよい支援ができるのではないかと。その医師に保護者も相談できるとよい。
- ・ 共通認識を持つこと。
- ・ 相談や診察時保護者と一緒なので聞けないことがある。
- ・ 保護者の前では話づらいこともあるので、医療機関と担任と2者で相談できる場がほしい。
- ・ 医療的なケアが必要な児童生徒への学習支援の充実。
- ・ 薬を活用し、自分でコントロールすることが望ましいのではとおもう場合に双方での意見が一致しないときどう歩み寄ればと考える。今まで効いていた薬を止めたまたは変えたことによって不安定になった時もその状態のまま様子を見ていくケースもあった。

#### (連携等のシステムについて)

- ・ 児童入学時に自動的に機関とつながれるシステムを県として作ってほしい。
- ・ 診断は受けていたが、特定の機関に関わってはいなかった。診断当初の状態と違ってくることもあるので定期的に関わってもらえるとよい。
- ・ 生徒を医療機関等に繋げるための過程の対応や時間が課題。状況を判断し保護者との面談、対応等を組織的に情報共有し医療機関へつなげるシステム等を学校内で確立していくことが重要。
- ・ 医療と連携をとることができるようになるまでが課題が多い。
- ・ 担任した児童が1名だったので連絡する余裕も在ったが、病院との面談(月1から2)は土曜の午後に公務外のような形であわせた。複数児童が在籍していたら困難ではないか。
- ・ 海外にある学校の場合、相当の医療との連携が難しい。
- ・ 保護者と医療、保護者と学校、それぞれの2者の連携は取れやすいが、医療と学校がつながるケースは少なく場の持ち方や連携のとり方などが課題。
- ・ 医療側からの助言を聞き、指導に取り入れ、保育に役立てられる様な案がほしい。個々の助言が欲しい。
- ・ 電話で相談できるとよい。
- ・ どの医療機関に相談すればよいか、すぐに相談に乗ってくれるか、保護者にどのように話せばよいか。
- ・ 連携のとり方が分らない。
- ・ 個人情報の観点から家族の申し出があるときのみ相談に応ずることができるので関係機関との連携方法を考えていくことが必要。

#### (保護者について)

- ・ 家庭への働きかけ。

- ・ 保護者が子どもの状態を受け入れるまでの配慮。
- ・ 医療と連携していても学校側の対応によって保護者の困り感が無くなる。特性が目立たなくなると通うことを辞めてしまうことがある。担任によってしんどくなる場合がある。
- ・ 母親に医療機関とのかかわりを多く持ってほしい。
- ・ 保護者の理解、前向きな姿勢が得られなければ医療機関との連携は難しい。
- ・ 保護者が担任と医療機関の連携に関心が薄い。学校がコンタクトをとることを好まない。
- ・ 医療機関との連携というよりも保護者の同意を得ることに労力を多く必要とした。
- ・ 家庭や病院から話があれば入っていけるがこちらからは難しい。

#### (その他)

- ・ 教育現場に十分な知識が必要。
- ・ 学校によって教員、管理職の意識も違い、取り組みの差が大きい。
- ・ あいまいな領域なので学校側も新しい情報をどんどん取り入れる必要があること。
- ・ 綿密に話し合えば特に問題なし。
- ・ 医療の壁は厚し。
- ・ 医療機関といかに快いつなかりを築けるかが大切。